工高タイムス

北海道旭川工業
高等学校新聞局
〒078-8804
北海道旭川市緑が丘
東4条１丁目１－１
発行人（局長）
佐々木　晃成
（電気科３年）

部活動紹介

各部　演出で盛り上がる
活動内容を楽しく知る

対面式と部活動紹介が4月11日4～6時間目に体育館で行なわれた。全校生徒が体育館に入っての対面式と部活動紹介は5年ぶりだ。

「オトナブルー」を演奏する吹奏楽部の皆さん

対面式では初めに中島泰彰校長先生が「対面式や部活動紹介を通じて同学年の横の関係だけでなく、縦の関係も大事にしてほしい」とあいさつをした。次に生徒会長の髙木風吹君（機3）が「旭工生は清潔感やさわやかさが特色だ。1年生には旭工にゆっくりなじんでいってほしい」とあいさつをした。

その後に放送局が制作した学校紹介の映像が体育館の壁に映し出され、生徒会顧問の福澤等先生が生徒会の意義について説明した。

部活動紹介では合計24の部がそれぞれの特徴をアピールした。次に髙木会長が生徒会役員を紹介した。最後に1年生を代表して越智通也君（情1）が「対面式や部活動紹介を通して旭工の雰囲気を感じることができた。旭工の一員として活躍できるように努力する」とお礼を述べた。

ラグビー部部長の髙島開成君（建3）は「部活動紹介ということもあってとても緊張したが、1年生に対して楽しくプレーを披露できたので良かった。短時間でラグビーの特徴を伝えられたと思う。1年生に少しでも多く入部してもらえるように迫力のあるラインアウトを披露した。旭工は高校から始めた人が多く、部員同士の仲もすごく良いのでぜひラグビー部に入部してほしい」と語った。

お礼を述べる越智通也君（情1）

部活動に所属していない2年生2人に取材をした。中條莞太君（機2）は「色々な部が勧誘のために一生懸命にやっていて見ていて飽きなかった。また、バレーボール部は普段の練習風景を見せつつ、その後にダンスなどをしていてメリハリがあり印象に残った」と話した。

大塚悠翔君（電2）は「各部が素晴らしい演出で盛り上げていた。山岳部が釣りざおを持ったり、テント立てをしたり楽しそうだと感じて興味を持った。また、数々の素敵な写真を見て写真部にも興味を持った」と語った。

鈴木颯介君（化1）は「各部の活動内容がおもしろく分かり楽しかった。バスケットボール部は動きが早く声出しにも迫力があった。去年の全国大会で見たプレイに憧れて入部した」と話した。

石川莉子さん（土1）は「色々な部の雰囲気が分かって良かった。特にバレーボール部はアタックやスパイクの練習、ダンスなど様々な動きを見せてくれておもしろかった。中学からホルンをやっているので吹奏楽部に入りたい」と語った。

1年生代表としてあいさつした越智君は「大人数の前で話す経験はなかったので、前日から話せるか不安で緊張した。部活動紹介では山岳部と茶道部が印象に残った。山岳部は自然に触れ合ってあまりできない体験ができそうだと感じた。よく考えてから自分が楽しめる部に入りたい」と話した。

局説

仲間と協力して

入学式から12日がたった。新入生の皆さんは部活動紹介を見て入部してわくわくしている人もいれば、集団行動を見て少し不安を覚えている人もいるだろう。旭工の良さを紹介したい。

一番楽しいのは見学旅行だ。去年、長崎と東京に行った3年生は「東京での自主研修で秋葉原や新宿などに行けたこと」「同級生との談笑」が楽しかったと話している。

各学科の実習はおもしろい。どの学科も少人数の班で勉強する。工業化学科は水酸化ナトリウムと廃油、尿素を混ぜて石鹸を作ったり、スズと銅を溶かして青銅鏡を作ったり、色々な実験ができて楽しいという。

土木科は班員で協力し自分たちでデザインしたコンクリート平板を作ったり、野外実習で測量を行なう。班員と連携していくことでチームワークや統一感を感じる。

情報技術科はデジタル時計の作成や3年次の3DCGでの画像作成が楽しいという。

どの学科も実習で企業見学や校外実習があり、プロの人たちから現場の話を聞けるのも楽しみだ。

全力で旭工生活を楽しもう。新聞局は旭工生を応援している。

旭工ライフ

実験が楽しみ

新入生代表として宣誓
余田哲平君（化1）

趣味はギター

入学式の新入生代表で宣誓をした。春休み中に教務部長の小檜山淳先生から連絡が来たのでやろうと思った。実際にステージの上に立って話したときはすごく緊張したが、大人数の前で話す機会が今までなかったのでとても良い経験になった。

旭工に入学した理由は二つあり、一つは旭工の電気科を卒業した兄から旭工の雰囲気や行事などの話を聞き、楽しそうな学校だと思ったから。もう一つは理科が好きだから。工業化学科で実験をしたり、実験や勉強についてクラスの友達と話し合ったりするのが楽しみ。

旭工は明るくて元気な人が多く、自分と気が合う人がたくさんいるので毎日が楽しい。

将来は就職を考えているので資格取得を頑張る。3年間で全力で打ち込めることを見つけて、学校生活を楽しみたい。

確認不足を反省

橋本　生徒会副会長

対面式と部活動紹介について生徒会副会長の橋本壮真君（建3）は「今年度初めての行事で書記次長の高杉涼介君（情2）が司会を担当した。整列はスムーズに動け、トラブルはなかった。事前に放送局との連携や動きの確認をして練習すればもっとスムーズにできたと思う。旭工の部活動がどんなものか1年生に伝えられて良かった」と話した。

1年生に向けて「資格を積極的に取得して、旭工でしかできないことを楽しんでもらいたい」と話した。

工具箱

私は昨年で学校行事の楽しい思い出がたくさんできた。特に思い出に残った工高祭と旭工オリンピックで楽しかったことについて書きたい▼工高祭では1日目にクラスステージ、2日目にクラス企画や科展示、模擬店などがある。私は準備期間に工業化学科の科展示でマリオのドット絵を描いて廊下に飾った。装飾を作ったり飾ったりするのも楽しかったが、工業化学科の科展示が一番良かった。ダイラタンシや宙に浮く水道などの面白い実験をたくさんしていた。クラスステージでは各クラスが踊りや歌を披露した。私もクラスステージでクラスメイトと思う存分踊った。他クラスのクラスステージも人気の曲が多くとても盛り上がった▼旭工オリンピックでは100mや200m、ソフトボール遠投などの個人競技や学級対抗リレー、部対抗リレーといった競技がある。私は部対抗リレーがとても楽しかった。各部の象徴となるものをバトンにして走る。例えばソフトテニス部はラケットでボールをつきながら走り、柔道部は柔道着をバトンにしていた。私が一番おもしろいと感じたのは剣道部で竹刀を使って剣道の技を見せながら走っていたそれぞれの部が見どころを工夫し、各部のパフォーマンスが楽しかった▼工高祭や旭工オリンピックだけでなく楽しい行事はいくつもある。一つ一つの学校行事に積極的に取り組んで、楽しい高校生活を送っていこう。（化2村岡）

ものづくりコンテスト

電子機械科

溶接部門

目標は全国大会出場

「昨年のリベンジをしたい」

溶接をする岩部君（左）と清水君

第24回高校生ものづくりコンテスト全国大会北海道ブロック大会が5月23日の電子回路組立部門から始まる。溶接部門に2人、自動車整備部門に2人が出場する。それぞれの部門に出場する選手たちの意気込みを紹介する。

電子機械科は3年生の清水駿君と岩部龍弥君が札幌市の一般社団法人日本溶接協会で6月27～28日に行なわれる溶接部門に出場する。2人は昨年に続き2度目の出場。練習は平日は3～4回で2時間練習し、土曜日は松田鉄工（株）か工業技術センター、学校で5～6時間練習している。競技内容は開先形状がV型の競技用材料1セットが配布され、その溝にアーク溶接でビードを4層盛り、波形や幅などの仕上がりを評価される。競技時間は清掃を含め30分以内。

清水君は「溶接する人たちがすごくかっこいいと思い、出場を決めた。父が昔、溶接関係の仕事に携わっていたので私もやってみたいと思った」と語った。作業について「溶接する時ビードが均等になるようにできるだけ同じスピードや振れ幅で進めるよう意識している」と語った。大会に向けて「最初から最後までの工程を完璧に行なえるように頑張る。悔いが残らないように練習してきたことをすべて出して上位入賞を目指す」と意気込んでいる。

エンジンの点検をする鈴木君（左）

岩部君は「溶接が苦手だったので、できるようになりたくて出場を決めた。昨年の大会は散々な結果だったのでリベンジしたいという思いもあった」と語った。「作業中焦ってよく失敗してしまうので本番では落ち着き、丁寧さを意識していく」と話し「悔いの残らない大会にし、優勝を目指して全力で頑張る」と意気込んでいる。

指導している松田鉄工（株）工場長の長井隆之さんは「2人とも昨年の大会で悔しい思いをしている。大会で戦える溶接を目指して練習している。

電子機械科

「全力で優勝を目指す」

自動車整備部門 普段の練習を丁寧に

電子機械科は3年生の鈴木太陽君と玉井康太君が登別の日本工学院北海道専門学校で8月5～6日に行なわれる自動車整備部門に出場する。2人は昨年に続いて2回目の出場。競技内容はエンジンの故障探求、日常点検、部品の計測、学科試験の4つがあり、各課題の競技時間は25分間で、採点基準は精度や時間内に的確に行なえるか、知識がきちんとあるか、礼儀はできているかなどで決まる。練習時間は月～土曜日までの1日2～3時間行なっている。

鈴木君は「自動車を見たり、触ったりするのが好き。練習では部品の計測が大変で正確さを意識している。大会では全力を出し切り、悔いの残らないようにして優勝を目指す」と強く語った。

玉井君は「自動車自体がすごく好きで普段の練習では一つ一つの練習を丁寧にすることを意識している。故障箇所を見つけるのが大変だが、練習の成果を発揮して優勝を目指す」と意気込んでいる。

ボクシング部

安藤君 LF級で全国出場

パンチ力の向上を

サウスポーの安藤楓君（電2）

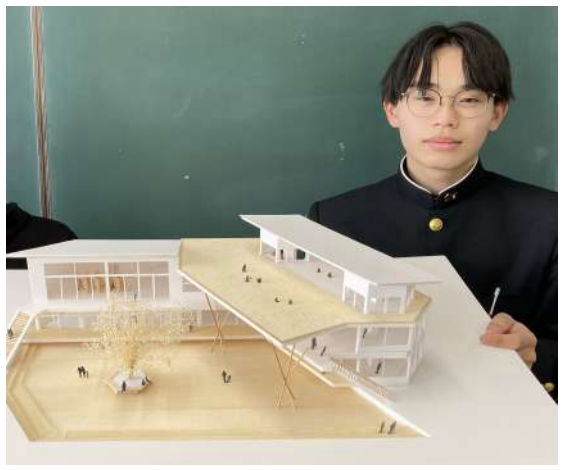
ボクシング部の安藤楓君（電2）が3月25～29日に岡山県玉野市総合体育館で行なわれた第35回全国高等学校ボクシング選抜大会にライトフライ（LF）級で出場した。ボクシング強豪校の兵庫県立西宮香風高校の選手と1回戦で対戦し、判定で敗れた。

安藤君は「旭工に入って初めての全国大会で緊張したが、いつも通りの動きができた。練習していたカウンターが大会でうまく決まって良かった。次の全国大会で勝てるようにガードだけではなくパンチ力をしっかり上げていき、インファイトの練習を行なっていきたい」と話した。

卒業設計コンペティション

大西君 最高の金賞

山本君が銅賞を受賞



休憩施設の模型を持つ大西葉月君

卒業設計コンペティション工業高校の部（日本建築学会北海道支部主催）に3月に卒業した建築科の大西葉月君と山本幸輝君が応募し、大西君が最高賞の金賞、山本君が銅賞を受賞した。

大西君は買物公園への建設を想定した休憩施設「Ｂｒｅａｋ　ｓｐｏｔ」を設計した。建物正面の広場をウッドデッキスペースにし、1階に図書館、2階に学習スペースと休憩場所を作った。「まさか金賞に入るとは思わなかった。笠木元太先生から連絡をもらったときも夢じゃないかと思った」と感想を語った。

「模型を作りやすくするために、事前にパソコンで3D表現をした。子どもから大人までどの年代でも自由に使えるように考えた。地熱を利用し、過ごしやすい温度になるよう工夫した」と話した。

温泉施設を設計した山本幸輝君

山本君は北彩都への建設を想定した温泉施設「ｗａｒｍ　ｃｏｍｆｏｒｔ～四つの一巡り～」を設計した。傾斜がある土地を活用し、棚田のような階段状のデザインで、段差の高低差は1ｍ。立ち位置によって子どもと大人の両方の目線で景色を楽しめる。子どもの頃に見た景色を大人になってから見たり、家庭を持ったら子どもと一緒に見たりする人生の一つの流れがタイトルの「一巡り」に込められている。

「入賞すると思っていなかったので驚いた。木をふんだんに使い、色や匂いを楽しめるようにした。ピロティの正面を低い柵で囲って子どもでも中が見られるように工夫した」と話した。

各部門の開催日と会場

電子回路組立部門（情報技術科）
5月23～24日　札幌琴似工業高校
電気工事部門（電気科）
5月22～23日　釧路工業高校
木材加工部門（建築科）
6月20日　帯広工業高校
化学分析部門（工業化学科）
6月21日　旭川工業高校
溶接部門（電子機械科）
6月27～28日　日本溶接協会
北海道地区溶接技術検定委員会
自動車整備部門（電子機械科）
8月5～6日
日本工学院北海道専門学校
測量部門（土木科）
8月8～9日　苫小牧工業高校
旋盤作業部門（電子機械科）
8月17～18日　苫小牧工業高校